茶道通信 10月号

平成２０年１０月６日
ともしび保育園

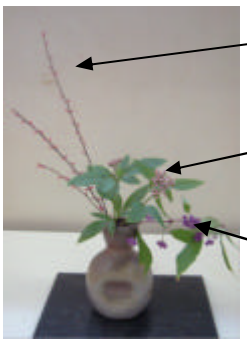
運動会も無事に終わり、ぞうぐみさんの子供たちは、心身ともに充実した毎日を送っています。その気持ちがお茶のおけいこにも現れていて、一つ一つの動作にも落ち着きがあり、***「お茶のおけいこってほんとにおもしろいね！」「なんだか楽しいきもちでいっぱいや！」「きょうのお菓子はお花のかたちや・・」***などの言葉も思わず出て、担任や、指導者の心も豊かになったひと時でした。

この次は、お茶筅を使ってお茶を点てる練習をしようと約束をしました。お家でもお客様にお茶を差し上げたいと張り切っていますので、ぜひ機会を与えて上げて下さいね。

＊10月のお干菓子

小菊、菊の葉

＊10月のお花



＊水引草（みずひきそう）

＊藤袴（ふじばかま）

＊紫式部（むらさきしきぶ）

帛紗（ふくさ）
男の子は紫色、女の子は赤または朱色が基本となっています。

※ 今月は、今までの復習と、**新しく帛紗を腰につけること**を練習しました。お茶を運ぶためには、帛紗をつけてお席（お茶室）に入ります。そのお稽古です。

①大きく広げて！

②三角に折って！

③お運びさんは、ふくさをつけて待ちます。

④ふくさを付けてのお運びで

＊豆知識　―　お茶の歴史（１）「お茶のもとは中国」

お茶を飲む風習がはじめて伝えられたのは、奈良時代といわれています。そのころは団茶というお茶の葉をつき固めただんごのようなものでした。

平安時代の終わりごろ中国の宋に渡った栄西という僧侶がお茶の実を持ち帰り、日本に広まっていったそうです。

栄西はお茶は飲んで楽しむだけでなく、病気に効く薬だと時の将軍源実朝に献上し、武家の間には広まり始めました。又、商人の間にも広まって行ったようですが、当時ではぜいたくな遊びと考えられ、お茶の産地や茶名を当てたりして楽しまれていたようですよ。来月は茶道の始まりへと続きます。